

保育おおさか

No. **453**

平成 25 年 5 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪市中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/

経営者部会・保育部会共催

子ども・子育て支援新制度セミナー

4月22日、シティプラザ大阪で開催されたセミナーに関係者250人が参加。基調講演、講義、行政説明、シンポジウムが行われました。

基調講演

社会福祉法人の社会貢献がより求められる

高岡國士氏（全国社会福祉法人経営者協議会会長）の講演要旨です。

■待機児童問題に対する取り組み

定員増や園舎増築などを行い、目の前の問題に取り組むことが必要です。なぜなら、社会福祉法人は、社会に対し積極的に貢献する必要があるからです。保育の質向上や長時間保育による就労支援、開園時間の延長や休日保育の拡充などニーズに対応した取り組みが求められています。

■家庭機能の低下への援助

保育園は、現状の取り組みに満足せず、一歩でも前進する意識を持ち、家庭機能低下に真剣に向き合い、地域福祉の大きなテーマに対し、各種機関と連携し横断的に取り組むことが求められています。

■社会福祉法人の存在意義の明確化

措置から契約へ。民間企業の参



高岡國士氏

入や女性の社会進出など、保育を取り巻く環境が劇的に変化する中、社

会福祉法人の存在意義を明確にすべ

きです。大阪府の老人福祉施設が取り組む生活困窮者への相談事業を行い、高い評価を得ているのは、全国に先駆ける先進的取り組みの一例。保育園でも、スマイルサポーターを設置し、育児相談のみならず地域住民の抱える課題に取り組んでいる実績があります。今後さらに一歩進めて、経済的な援助なども視野に入れた社会貢献が求められています。

高岡氏は最後に「質の高いサービスを積極的に展開し、地域に貢献していくことこそが、社会福祉法人が生き残る唯一の道です」と強調されました。

(編集委員 R・Y)

講義

インクルージョンの発想で保育

吉田正幸氏（保育システム研究所代表・有限会社遊育代表取締役）が講義された要旨を紹介します。

■少子化対策

子育ての全てを保育園に委ねるのではなく、ワークライフバランス(働き方)など職場環境を見直す総合的な取り組みが必要です。また、全ての子

どもに対する高い幼児教育政策が必要

■子ども・子育て関連3法の趣旨



吉田正幸氏

保護者が子育ての第一義的責任を有することを基本に、幼児期の学校

教育・保育、地域の子育て支援を総合的に推進することが法の趣旨です。認定こども園、幼稚園、保育所共通の「施設型給付」、小規模保育などへの「地域型保育給付」が創設されます。

■認定こども園制度の改善

認可・指導監督が一本化。学校および児童福祉施設としての法的位置づけが行われます。幼保連携型認定こども園の設置主体は国、自治体、学校法人、社会福祉法人のみで、株式会社などの参入は認められません。

■財政措置

「施設型給付」に一本化。地域の子育て支援拠点、放課後児童クラブなど、地域の実情に応じた子育て支援事業の充実が行われます。

吉田氏は最後に、今後の保育所運営について「インクルージョンの発想」排除しない、例外のない保育保障「機能のインテグレーション」養護機能と教育機能の一体化、幼児教育の共通化」と「関係者のインテラクティブ」職員間や園・保護者の協働性の確立、地域社会との共助の構築が重要」と指摘されました。

(編集委員 M・K)



挫折というのは、誰でも経験していると思いますが、挫折ってそんなに悪いことでしょうか。

挫折を繰り返しても、立ち直ることで人としての器は大きくなっていくと思います。立ち直ることが前提になります。

そんなに偉そうなことは言えませんが、最近の親(ごく一部の)人と思いますが、子どもをどういう大人になって欲しいと思って接しているのか、私は解らなくなりました。

悪いことをすれば叱る、かっことで負けても次に頑張るよう努力させる、それが親であり、先生でもあるでしょう。

子どもの心理学に詳しい方がおられたら、年齢に応じた挫折をさせるカリキュラムみたいなものを作っていただけないでしょうか。

強い子を育てるためには、本当はまず大人が手本となって、強いところや器の大きさを見せれば、自然と尊敬するようになります、そういう大人になりたいと子どもたちは思うはずです。

もっと、「挫折」を経験して欲しいものです。(編集委員 N・N)

行政説明

保育をめぐる 動向

鈴木義弘氏（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐）の報告要旨は次のとおりです。

家庭の養育への支援は、全ての子どもを対象とした子育て支援策が必要。待機児童問題は重要課題です。

低年齢児（0～2歳）の待機児童は平成29年まで見込まれており、保育士確保は喫緊の課題。安心こども基金による保育士の処遇改善や就業継続支援、潜在保育士などを支援する「保育士・保育所支援センター」の設置などが盛り込まれています。

新たな幼保連携型認定こども園の職員である保育教諭は、「幼稚園教諭免許状」と「保育士資格」の両方を有することが原則。保育士に対する幼稚園免許取得の特例であり、新たな認定



鈴木義弘氏

こども園制度施行から5年間の経過措置を設けます。

シンポジウム

子ども・子育て支援新制度 今後の課題と問題提起

パネリストは、吉田正幸氏、倉田薫氏（前池田市市長）、菊池繁信氏（全国保育協議会副会長）の3氏。コーディネーターは宮田裕司氏（経営者部会・保育部会合同「子ども・子育て新システム検討会」委員長）。

「ポスト待機児童」に留意

吉田氏は、民間保育園の課題について、自園が根ざす地域の状況を把握し、主体となって、子育てのしやすいまちづくりを行っていく必要性を強調しました。

新制度では、小規模保育事業などを増やすことで、待機児解消へのスピード感ある施策について言及。今後の課題として、どの地域でも児童数が減るのは自明であり、供給過剰という「ポスト待機児童問題」をしつかり考える必要があること、今後各市町村で策定される「子ども・子育て支

（編集委員Y・S）



援事業計画」では、待機児童のピークを超える2期目を留意しなければならぬと語りました。

「提案型」の 関係づくり

市議や市長の経験をもつ倉田氏は、少子化対策をまちぐるみで行う提案が求められており、行政を「褒めて育てること」が大切であること、「要望型」ではなく「提案型」の関係づくりが重要であるなど、行政との関係構築について示唆。関

係づくりの場として、子ども・子育て会議設置の重要性を指摘しました。

行政には、民間との連携を模索する流れがあり、行政改革の潮流に乗ることも大切であると指摘。最後に、「行政や首長のパートナーとして自身の保育園の組織がふさわしいか、疑ってみることも大切」と述べました。

「狭間のニーズ」に 応える

菊池氏は、子どもの保育の質を担保することを前提に、待機児解消をきちんと果たすことが重要であり、小規模保育事業などを前倒ししてでもやるという意気込みが大切であると述べました。

制度の狭間に置かれたニーズに積極的に応えていくことが重要であると指摘。スマイルサポーターを中心とした地域貢献事業のさらなる発展が必要なこと、社会福祉法人の存在意義を積極的に発揮することの重要性を強調しました。（とりかいひがし保育園 H・S）

就任のご挨拶

子育て支援策に全力



三ツ石浩幸氏



森田正典氏

大阪府社会福祉協議会保育部会の皆様方には、日頃から本府保育行政のみならず、児童福祉行政全般の推進にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

平成25年4月1日付で子ども室室長に三ツ石浩幸が、子育て支援課課長に森田正典が就任いたしました。子どもや保護者を取り巻く環境は大きく変化する今日でありますが、保育施策をはじめとする子育て支援施策や児童虐待への対応などに全力を挙げて取り組んでまいります。

昨年8月に成立しました子ども・子育て関連3法に基づき、幼児期の学校教育・保育や地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する

新たな制度について、具体的な検討がいよいよ始まります。

大阪府におきましては、国の動向を注視するとともに、「子ども施策審議会」をはじめさまざまな皆様のご意見を伺いながら、今後の子どもの健やかな成長を見据えた計画策定を進めてまいります。

また、喫緊の課題である待機児童の解消については、保育部会の皆様方のご協力を得ながら、「安心こども基金」を活用した保育所整備に引き続き取り組むとともに、保育所保育指針を踏まえた研修の実施や本年度の新たな事業である保育士の処遇改善などを通じて質の向上を促進してまいります。

次代を担う子どもたちが健やかに、心豊かに成長できる社会の実現を目指して取り組みを進めてまいりますので、保育部会の皆様方には、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

社

会福祉法人照治福祉
会「阿武山たつの子

保育園」は、平成9年4月
に開園した定員160人の
保育園です。高槻市の北西
部に位置し、小学校と老人
ホームの間、閑静な住宅街
の中、自然がいっぱいのと
ても恵まれた環境に立地し
ています。

毎日決まった保育士によ
る「担当保育」。乳児一人ひ
とりを大切に、安心して生
活ができるよう配慮されて
います。

幼児は、人との関わりを
大切に「異年齢保育」を行っ
ています。子どもたちが主
体的に遊びを決め、お互い

を認め合い自信を持って活
動しています。自分を発揮
しながら人と積極的に関わ
り、社会性を身につける保
育を実践しています。「情緒
が安定し、人との信頼関係
が深まります」と原道子園
長がお話しされていました。

園庭を「第2の保育室」と
考え、あえて障がい物が多
いように設計。凹凸ジグザ
グ道や石垣、トンネル、丸
太など、子どもたちはさま
ざまなことにチャレンジし
ていました。経験をすること
で可能性を引き出し、危
険を予知する力を身につけ
たいという思いを強く持た
れていました。

子どもたちは、心ときき
めかせて日々遊び、保育理
念である「ときめきひらめ
き輝いて生きる力」が育ま
れています。

開園と同時に併設された

園庭は「第2の保育室」 凹凸ジグザグ石垣トンネル

心ときめかせ遊ぶ日々
地域の子育ての憩いの場

高槻市 阿武山たつの子保育園



穴の中から「やっほ〜!」



冒険・挑戦ができる園庭

高槻市初の「地域子育て支
援センター」では、「親子教
室」や「園庭開放」などを
定期的に開催。毎日たくさ
んの親子が利用され、地域
の子育て家庭の憩いの場と
なっていました。

(編集委員M・K)



保育園を
たずねて

469



あ

すなろ保育園は、JR
学研都市線住道駅か
ら南へ徒歩7分にある定員
120人の保育園です。

昨年度には創立40周年を
迎え、園舎を建て替え、新
たなスタートを踏み出しま
した。太陽光発電や雨水タ
ンクを備え、子どもたちに
も見えるように設置するこ
とで、身近にエコを感じら
れるようにされています。

「園児、保護者、職員が互
いに敬愛しあい、健やかで
力いっぱいすることに喜び
を感じる子どもの育成とよ
りよい環境作り」を保育方
針に、さまざまな保育を展



お年寄りの方たちと



冬でもみんな半袖!



新しい園舎

40周年機に新たなスタート 太陽光や雨水タンクでエコ

「ありがとう保育」と思いやり
強いからだづくりに励む

大東市

あすなろ保育園

気持ちをお互いに持ち、敬
愛しあおうというのが「あ
りがとう保育」です。いつ
も始めに最優先にされてい
るのは「子どもの都合」だ
そうです。

「からだづくり」は、年間
を通した薄着と裸足保育で
す。子どもだけでなく保育
士、園長も半袖で過ごされ
ています。大人のがんばる
姿が伝わり、子どもたちも
元気に半袖で遊ぶ姿があり
ました。思いやりに包まれ、
強いからだづくりに励む子
どもたちの笑顔が印象的
でした。

(編集委員A・O)



● 保育園における業務改善 ●

「暗黙の了解」 「不文律」の見える化 北大阪ブロック

「暗黙の了解」をあらため 文書化・マニュアル化

枚方市 茄子作保育所

業務の文書化に取り組みはじめたのは4年前のこと。20年間にわたって園を指導してきた前黒田静子園長から現奥野由美子園長に引き継いだことがきっかけでした。

地域の保育所として昭和28年に開設され、当初から地域に根差した運営を続けてきました。園長をはじめ職員、保護者や祖父母に至るまで、たくさん卒園児がいます。前任の園長が長年にわたり園を導いてきた

こともあり、園の運営は順調に推移してきたのです。しかし、何事も「暗黙の了解」という形で進められ、明確に文書化されたものが不足していたことは否めません。

保育士として寝屋川市の公立保育園勤務の経験がある現園長は、文書化・マニュアル化の必要性を痛感していました。新園舎への建て替えの課題とともに、定員増の問題も抱えていた当時、府・市から第三者評価を

受けるようにとの助言を受けていたことも大きな要因でした。「標準化セミナー」（高田一平講師）に参加したのは、ちょうどそんな時期でした。セミナーで得た課題を整理して、園長から職員に伝えました。

しかし、これまでどおりの上意下達の方法では、皆の受け止め方に差があるということに気付いたのです。そこで、会議の進め方に少し工夫を加えることにし職員同士で話し合う機会を設けました。茄子作保育所の職員の年齢構成は、中堅職員が8割以上を占めるという偏りがありました。

園のさまざまなことについて、ある程度知っている職員が多いことも「暗黙の了解」が増える要因でした。「暗黙の了解」によって、若年層との意思疎通や教育に時間がかかっていましたが、文書化と職員間の話し合いによって少しずつ解消されてきました。

セミナー講義の後に行われた「小集団によるフリー・トーキング」は、大変参考になりました。

（茄子作保育所 Y・O）

職員全員で議論深め マニュアル作りに活用

交野市 わかば保育園

わかば保育園の園長を引き受けたのは4年前のことでした。当時は、第三者評価への対応と財団法人から社会福祉法人への移行という2つの課題を抱えていた時期でした。

もともと地域に密着した保育園でしたから、保護者も卒園児であるというケースが多々あります。そのため、園の運営のさまざまな場面において、伝統的に引き継がれている「不文律」のようなもので対処できていたのです。しかし、待機児童解消のための事業が進められ、それまで以上に広範囲の地域から入所する園児が増えるようになりました。それに伴い、新しい職員も多くなってきました。

保護者への対応や保育士の処遇などについて、従来から行ってきた手法の見直しを迫られました。それらをマニュアル化する必要性を強く感じるようになった

のです。そんな折に「標準化セミナー」を主任保育士と共に受講することにしました。

膨大な文書がオフィスソフト「エクセル」仕様だったため、パソコンがあまり得意でない私は、とても苦労しました。高田氏の講義は一語一句丁寧で、参加者の言葉をすくいあげながら進められました。1年間という長い期間でしたが、とても解りやすく、大変勉強になりました。

編集委員からひと言

「標準化セミナー」の講義後のグループ討議で、両園の園長先生とご一緒させていただいたのをきっかけに、両園長先生に執筆をお願いしました。

私の園も「標準化セミナー」を連続して受講しています。が、両園と同様に「標準化」「文書化」については、なかなか

セミナーでの課題を園に持ち帰っては、「保育」に特化したマニュアル作りに活用しました。職員会議では、全員に周知して議論を深め、修正や付加の作業を行いながら進めました。新入職員を含む全員の意思統一を図るうえにも大いに役立ちました。従来、各保育士個人の技能・力量に依存していたものが、全体に底上げされていくことを実感することができました。

セミナーの文書類には「持つべき」と思うものがたくさんあります。そのまま当園の場合にあてはめて利用させていただき、大変重宝しています。

（わかば保育園 M・H）

か進んでいませんでした。

園長などからの指示だけではなく、各種の課題をもとに、職員会議などで「現場の声を聴く」「話し合う」場を設けたことは、最大の成果だと思っています。良い手法を与えていただいたと感謝しております。

このようなケースでお悩みの保育園さん、ぜひご参加ください。（編集委員 J・H）

子ども・子育て支援新制度のスタートを2年後にひかえ動き出す時期。

おおだ保育園（門真市）

の馬場耕一郎氏が厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課「保育指導専門官」に4月1日就任した。現場を十二分に理解している民間保育園の園長がその立場に立つのは、何とも頼もしい限りではないか。それもこの大阪から。

日本の将来を担う子どもを育む施策。地に足がつく形に尽力を振るわれんことを期待する。

人間には大変遠ざがすく嬉しい5月。ミカンの花咲く頃と色づく頃は

医者が暇になる。……数年はまつている「山あじさい」。

昨年、高知で「六尺へちま」の苗を手に入れた。棚に絡ませ、十数本収穫。種が沢山採れたので譲ろうと思いい仲間の保育園に呼び掛け、二十数園から希望があった。なかなか

旬 さあ春本番。花咲き乱る5月 山あじさいの可憐な色、 六尺へちまも

の見応え。ネットで検索すれば、どんなモノかご覧になれる。12月初旬にはコンテストを企画予定（笑）。

連休中には決算も済まさないかんし、事業報告案も作らなアカン。役所への報告書も今年度から府やのうて地元の市役所に提出。それを元に監査。また大勢でやって来るのでしょう。これ以上は行政へのつらみになるから、この辺りです。

私の住むニュータウンは高齢化率一番で、近所では家族葬が多く、回覧が回らないことも。「あそこの人、最近見かけんな」「亡くなったらしいよ」「えっ、いつ？」。

現役の場合はそうは行かないが、定年退職してから20数年も経つと、会社関係も疎遠に「直葬」を看板にしてPRする葬儀屋があるが、さもありなん。

「訃報は出せ」「香典はもらうな」「花は好きやから供花はいただけ」と、家族には伝えてある。「あの酒飲みも、とうとう逝ってしもたな……」と、交友の皆様には、今生の別れに送ってほしい。園長の皆様、職員や園児・卒園児・保護者など多くの方に見送られての葬儀をしましょう。

（H・N）

ブロックだより

OSAKA

平成25年度各ブロックによる研修等の事業計画です。

北摂

5月9日 総会・研修会

5月26日 職員運動会

6月7～8日 職員研修会

8月 職員納涼研修

9月上旬 役員会

11月 保育士研修会

11月下旬 年末研修会

12月1日 職員バレーボール大会

2月上旬 主任職員研修会

3月上旬 職員研修会

北大阪

4月30日 第1回役員会

6月7日 第2回役員会

8月下旬 総会、理事長・園長研修会

8月下旬 第3回役員会

職員研修会

10月中旬 正副会長会議

12月初旬 第4回役員会

1月下旬 第5回役員会

保育士研修会

河内（東大阪市）

5月8日 新任研修

5月23日 障がい児研修

5月28日 バルーンアート

研修

6月7日 わんぱくフェスティバル

6月中旬 理事長・園長管

外研修

7月6日 ボウリング大会

河内（八尾市）

6月中旬 保育士研修

8月下旬 園長・理事長研修会

11月中旬 保育士研修

1月中旬 ボウリング大会

2月中旬 東大阪市私立保育士会との連絡会

南大阪

5月10日 総会

6月 音楽研修、主任保育士研修

6月19日 年長児大運動会

7月 救命応急手当て

10月 主任保育士研修

11月 職員一泊研修

1月 ミュージカル観劇研修、新任フオーロー研修、主任保育士研修会

2月 卒園記念サッカー大会

堺

3月 新任職員研修

4月23日 総会

7月16日 園長研修会

10月15日 園長研修会

11月9日 堺市議会議員との意見交換会

12月17日 園長研修会

泉州

（園長研修）

5月31日 総会・研修会

10月下旬 園長研修

（保育士研修）

5月18日 総会・記念講演

「日本の美しい歌」

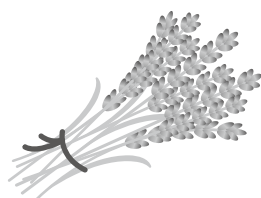
7月6日 研修

「絵画を通してこどもの成長を考える」（仮題）

11月12日 保育士1日研修

1月11日 研修

「ゆがみの少ないきれいな姿勢を」（仮題）



お知らせ

保育部会総会

日時 5月20日（月）14時～17時

会場 シティプラザ大阪 2階「旬」

記念講演では「乳幼児期の心身の発達—子どもとのかかわりの基本についての確認」のテーマで、阿部和子氏（大妻女子大学家政学部児童学科教授）が講演。多数のご参加をお待ちしております。ご不明な点などございましたら、事務局までお問い合わせください。

TEL：06-6762-9001